

Ⅲ 普及指導計画戦略課題の取組

1 戦略課題名No. 1「将来を担う新規就農者・青年農業者の確保・育成」

対象地区:宇都宮市、上三川町

対象名:新規就農希望者、新規就農者、青年農業者、地区・市町青少年クラブ

1 普及活動の経過

(1) 新規就農者の確保

就農支援ネットワーク会議を中心に、就農希望者への相談支援や青年等就農計画の作成支援を行いました。

また、就農希望者に対しては、経営支援チームが農地の確保、資金調達、補助事業などの支援を準備段階に応じて実施しました。

(2) 新規就農者の経営安定支援

就農1年目の新規就農者を重点支援対象者として位置づけ、個別巡回を実施しました。

また、研修生と就農間もない先輩農業者との交流会「アグリトークin河内」を開催し、就農時の不安を解消するとともに、地域とのネットワーク構築がしやすい環境整備を図りました。

(3) 青年農業者・新規就農者の経営能力向上支援

経営管理や労務管理、各品目の栽培技術等に関する「河宇地区経営技術改善セミナー（以下、セミナー）」を開催し、技術力や経営管理能力の向上を支援しました。

(4) 青年農業者組織活動活性化支援

直売イベント、学校への職業紹介等、地域に密着した活動や担い手との交流を支援しました。また、青年農業者によるプロジェクト活動交換会を開催し、有意義な意見交換を行いました。



アグリトーク in 河内



バレンタインマルシェ in かわち出店

2 普及活動の成果

(1) 新規就農者の確保

新規就農者39名（うち自営就農者31名、雇用就農者8名）を確保しました。また、研修体制の強化のため、国の新規就農者育成総合対策の研修機関としていちご、アスパラガス、梨の認定を受けており、研修受け入れ先としてマイスター30人体制で運用しています。

(2) 新規就農者の経営安定支援

新規就農者1名あたり年間約25回の巡回を行い、技術力向上や経営安定を図りました。また、研修生と先輩農業者との交流会には延べ28名の研修生が参加し、先輩農業者から就農に関する助言を受けるとともに、参加者同士で意見交換が活発に行われました。

(3) 青年農業者・新規就農者の経営能力向上支援

7回のセミナーを開催し、延べ98名の青年農業者および新規就農者が参加しました。農政セミナーでは、県内外の優良経営体2件を視察し、管内農業者が経営の発展過程や経営者の経営感覚を直接聞く機会を提供しました。

(4) 青年農業者組織活動活性化支援

青年農業者組織が1回の自主的活動に取り組み、河宇地区の農業のPRを行いました。

3 課題と今後の取組方向

(1) 新規就農を希望する非農家や他産業・県外からの参加者が増加している中で、研修先や農地の確保、第三者を含めた経営継承について関係機関と緊密に連携し、支援します。

(2) 年度途中に就農した新規就農者に対しても個別巡回を行い、新規就農者の経営の安定に取り組んでいきます。

(3) セミナー参加者の技術力や経営管理能力が向上するように、内容の改善を図ります。

(4) 地域の青年農業者等が新たなつながりをもてる仕組みを検討し、支援していきます。

2 戦略課題名No. 2「地域農業を支える多様な担い手の確保・育成」

対象地区:宇都宮市、上三川町

対象名:経営改善に意欲的な認定農業者、法人志向農家、集落営農組織化対象地域、
営農集団、基盤整備・土地改良事業地区、集落営農組織、農村女性及びそのパートナー、6次産業化に意欲ある農業者、起業グループ

1 普及活動の経過

(1) 経営体の経営発展支援

とちぎ農業経営・就農支援センターと連携し、農業経営個別相談会の開催や専門家の派遣を行いました。農業者の農業経営上の課題について、具体的な助言を受ける機会を提供し、課題解決を支援しました。

(2) 集落営農の組織化

組織化や法人化等を志向する組織や地域の情報を把握するため、市町、JA等関係機関・団体と打合せ会議等を行うとともに組織代表者の巡回や地域計画に係る地域会合の開催を支援しました。

(3) 営農継続力強化に向けた広域営農システムの構築支援

モデル地域(宇都宮市:上小倉、上三川町:上郷)の課題解決に向け、研修会の開催や若手認定農業者等担い手との意見交換等の実施を支援しました。農地集積の仕組みづくりや園芸作物の導入等を支援しました。

(4) 次世代を担う女性の確保育成

女性農業者の農業経営参画に向け、アクティブ講座及び視察研修会等を開催し、次世代女性農業者の育成を図りました。

経営技術改善セミナーと共同開催することで、男性も含めて参加者アップに繋がりました。

(5) 売れる6次産業化商品の開発支援

6次産業化に意欲ある農業者リストを作成し、6次産業化セミナー等の情報提供及び参加誘導により、新商品開発及び商品のブラッシュアップを支援しました。



農業経営個別相談会



営農組織活動活性化研修会



アクティブ講座



米消費拡大講座

2 普及活動の成果

(1) 経営体の経営発展支援

専門家派遣等の個別支援の成果として、管内農業経営体の法人化および企業参入により、新たに8件の農業法人が設立されました。

(2) 集落営農の組織化

市町、JA等の関係機関と打合せや会議を重ねたことで、組織化等を志向する地域の動きや、既存組織が抱える課題を関係者間で共有することができた。これにより、今後の組織化・法人化に向けた方向性や課題解決の具体的な検討が進むなど、地域の体制整備に向けた基盤づくりを図ることができました。

(3) 営農継続力強化に向けた広域営農システムの構築支援

上小倉地区では、地域内の担い手や関係機関・団体と会議等により地域内集積について検討することで、地域内集積に関するルールが明文化されました。上三川町上郷地域では、地域営農の継続に向け、農業者のニーズに合った基盤整備のあり方を提案していくことが決まりました。

(4) 次世代を担う女性の確保育成

女性農業者を対象とした講座を12回開催（延べ282名の参加があり、農業関係の知識向上を図りました。にら女性勉強会では、定期的な技術研修会を3回開催した他、販売促進活動用レシピ集を作成、宇都宮市と上三川町の全小学生に配布し、会員が食育活動を実施しました。また、キャッサバや柑橘栽培について検討する勉強会が立ち上がりました。

(5) 売れる6次産業化商品の開発支援

6次産業化に意欲ある農業者リストを整理し、4段階別に36名を整理しました。実践セミナーへの参加誘導や企画振興チームとの連携による6次産業化実践アドバイザー派遣等の支援及びラベル研修会等を実施し、7点の新商品開発が行われました。



6次産業化商品の開発支援



マルシェにてにらソースの試食調査



にらレシピ集

3 課題と今後の取組方向

- (1) 法人化については、経営者と法人化の目的を十分話し合いながら、とちぎ農業経営・就農支援センターと連携した専門家派遣を行い、経営高度化の支援に取り組みます。
- (2) 集落営農組織が抱える課題は地域ごとに異なるため、次年度以降は個別支援を中心に据え、営農の継続・発展につながる取組を進めていきます。
- (3) 農地の集積・集約については、地域会合の開催支援等を通じて、地域内での調整を促し、さらなる促進を図ります。
- (4) 若手女性農業者の育成に向けて、必要な情報を把握し今後の講座内容の充実を図るとともに、積極的に農業経営に参画出来る環境整備を行っていきます。
- (5) 6次産業化に意欲のある農業者には個別相談を実施する等、対象者に合った支援を検討していきます。

3 戦略課題名No. 3 「地域の中心となる土地利用型経営体の育成と経営安定化」

対象地区:宇都宮市、上三川町

対象名:JAうつのみや耕種受検組合、集落営農組織、大規模個人経営体、
大規模経営志向者

1 普及活動の経過

(1) 土地利用型経営体の育成支援

米低コスト生産実証研究会を含む大規模経営体への定期的な個別巡回により、資材費低減等の技術支援を行い、低コスト栽培に向けた経営支援を実施しました。

また、スマート農業技術の個別巡回による情報提供を行いました。気候変動に伴う水管理や薬剤散布といった栽培管理の重要性への理解が進みました。

(2) 需要に応じた米の生産振興

高品質米の安定供給のため、高温耐性品種かつ縞葉枯病耐性のある「とちぎの星」について現地検討会等で理解促進資料を配付、栽培支援したことで作付推進を図りました。

また、気候に応じた栽培管理について、水稻栽培技術資料を随時送付しました。

飼料用米については収益性向上のため、現地検討会において堆肥利用等について説明、資料を配付しました。



水稻現地検討会

(3) 麦・大豆の品質向上・安定生産による畑作物の生産振興

ビール大麦・小麦について栽培技術指針に基づく資料の作成・配布をし、栽培講習会において子実蛋白含有率の安定化のための施肥等の栽培支援を行いました。

大豆の単収向上を図るため、鶏ふんを利用した大豆調査ほを設置し、現地検討会や栽培講習会で排水対策、地力、根粒活性向上等の重要性を説明し、安定生産技術の普及定着を図りました。



大豆栽培講習会

2 普及活動の成果

(1) ・経営面積50haを超える経営体数は8経営体から10経営体となりました。

・スマート農業生産技術導入経営体数は85経営体から88経営体となりました。

(2) ・とちぎの星(主食用+加工用+備蓄用)栽培面積は686haから1,196haとなりました。

・主食用米の1等比率は93.2%から94.9%になりました。

(3) ・小麦「ゆめかおり」子実蛋白含有率12.5%以上割合は75.9%から100%となりました。

・大豆「里のほほえみ」展示ほにおける製品重は25%増、肥料経費は18%減となりました。

3 課題と今後の取組方向

(1) 大規模化に伴い、スマート農業と直播技術を活用した省力的な低コスト生産を推進します。

(2) 高温耐性のある「とちぎの星」の作付推進により、稲作経営の安定化を図ります。

(3) ・麦類は需要に応じた品種の作付を推進します。

・大豆は有機物・堆きゅう肥を活用した肥培管理支援を推進し、単収向上を目指します。

4 戦略課題名No. 4 「都市部における持続可能な畜産経営の確立」

対象地区：宇都宮市、上三川町

対象名：酪農家、JAうつのみや畜産関係部会（和牛改良専門部会・肉牛専門部会、養豚専門部会）

1 普及活動の経過

- (1) **イネ縞葉枯病抵抗性を有する茎葉型WCS用稲の利用拡大**
「つきすずか」等のWCS専用品種について、収穫適期や牛への給与上の注意点等の情報提供を行い、地域での有効活用を推進しました。
- (2) **肥育農家のニーズに合致した子牛生産技術の確立**
肥育農家のニーズの高い発育の良い子牛作りを目指し、体高や胸囲等の一定の基準を満たす牛を認定する「四つ☆子牛プロジェクト」の活動を関係機関と連携し支援しました。
- (3) **和牛肥育経営における安定収益の確保**
枝肉共励会等に合わせて肥育牛の体測や超音波肉質診断調査を実施し、それらに基づく適期出荷指導や飼養管理指導を行いました。
- (4) **耕畜連携による飼料作物生産拡大**
畜産農家と堆肥の利用を希望する耕種農家や園芸農家の連携強化を支援し、畜産農家の堆肥の活用と農家の飼料作物生産を推進しました。



牛の体測の様子



畜産農家の堆肥舎

2 普及活動の成果

- (1) **イネ縞葉枯病抵抗性を有する茎葉型WCS用稲の利用拡大**
専用品種の利用を推進した結果、WCSを利用している畜産農家で年間必要量の確保ができました。
- (2) **肥育農家のニーズに合致した子牛生産技術の確立**
矢板家畜市場に出荷される和牛子牛の出荷日齢の短縮及び増体量の向上に向けて、JAうつのみやと連携して和牛繁殖農家の巡回や「四つ☆子牛プロジェクト」の支援を行い、去勢子牛の増体量は1.05kg/日になりました。
- (3) **和牛肥育経営における安定収益の確保**
平均枝肉重量が560kgに増加するとともに、枝肉格付けA・B4以上の割合が95%に向上しました。
- (4) **耕畜連携による飼料作物生産拡大**
管内の耕種農家と畜産農家の耕畜連携を支援したことにより、飼料作物の作付面積が15ha、堆肥の流通量が60トンに増加しました。

3 課題と今後の取組方向

- (1) 「四つ☆子牛プロジェクト」の支援を継続し、発育がよく過肥でない子牛づくりを推進し、市場での評価を向上させることにより、安定した和牛繁殖経営を支援します。
- (2) 暑熱ストレス軽減のために牛舎環境の改善を図るとともに、枝肉研究会出品牛の選畜巡回時の体測等を通じて、適期出荷や飼養管理改善を関係機関とともに推進します。
- (3) 地域ブランドである「宇都宮牛」の認知度向上を目指し、みえるらべる（環境負荷低減の「見える化」ラベル）の取得を推進するとともに、関係機関と連携し宇都宮牛のPRを支援します。
- (4) 関係機関と連携し、堆肥を供給可能な畜産農家と堆肥利用を希望する農家のスムーズな受け渡し体制の構築を支援し、堆肥の有効活用を推進します。